【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第１区分
【発行日】平成21年12月17日(2009.12.17)

【公表番号】特表2002-521798(P2002-521798A)
【公表日】平成14年7月16日(2002.7.16)
【出願番号】特願2000-561801(P2000-561801)
【国際特許分類】
Ｈ０５Ｈ　1/34　(2006.01)
Ｂ２３Ｋ　10/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０５Ｈ　1/34
Ｂ２３Ｋ　10/00　５０４

【誤訳訂正書】
【提出日】平成21年10月21日(2009.10.21)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】０００４
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【０００４】
活性のプラズマガスを使用したプラズマアークでは、高い熱電子放射率を持った材質のインサートを備えた銅製の電極を使用するのが一般的である。インサートはインサートの端の面が放射面を画定し、露出するように、電極の端の底部にプレスばめ（press fit）される。インサートは通常、ハフニウムかジルコニウムから作られ、円柱状の形状をしている。
【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】０００５
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【０００５】
従来の円柱形のインサートは意図したとおりに動作するが、製造者はそのような電極の、特に高電流の処理に対する、耐用期間を改善しようと努力している。したがって、本発明の基本的な目的は電極の耐用期間を改善する、インサート構造を持った電極を提供することである。
【誤訳訂正３】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】０００６
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【０００６】
（発明の要約）
本発明の基本となる発見は、いくつかの本質的な制限が従来の円柱形のインサートのデザインに由来するということである。これらの制限は、特に高電流の処理の、電極の耐用期間を制限する。従来の円柱形のインサートでは、高い電流容量の動作に対して放射面の寸法は増大されてきた。しかしながら、高い熱電子放射率のインサートは電極本体に比べて低い熱伝導性を持つ。（例えば、ハフニウムは銅の熱伝導率の約５％の熱伝導率を持つ。）これはインサートの中心から熱を（放熱器として振舞う）電極の周りの部分へ除去す

ることを難しくしている。